

まえがき

この報告書は、平成19年1月12日から13日にかけて、国際日本文化研究センターで開催された第8回日本在住外国人シンポジウム「コミュニケーションを考える (Rethinking “Communication”）」における提出論文と討論を取りまとめたものである。

シンポジウムの計画段階で、海外研究交流室のJames C. Baxter教授と渡辺雅子助教授に、「日本人の言語感覚」をめぐる問題をテーマとしてはどうか、という漠としたコンセプトを室長として提案したところ、この報告書にまとめられたような論文からなる興味深いプログラムを作成して下さった。

参加者の出身国は、フランス、英国、中国、トルコ、ドイツ、エジプト、米国、イラン、韓国、日本と10カ国に及び、言語・音楽・コミュニケーションの様々な側面に分析を加えた論文が報告され、活発かつ生産的な論議が交わされた。具体的なテーマとして、外国語教育の現場における異文化コミュニケーションの問題、外国語で書くことの意味、シンタックスに関する言語学的推論、音楽教育と外国語教育の近似性など、広がりのある問題を深く議論する機会を得たことは大きな収穫であった。

正月明けの忙しい時期に遠くからご参加下さった皆様に、海外研究交流室長としてこころより御礼申し上げます。

なお、中東地域出身の専門家の招聘については、当時日文研に客員研究員として滞在中のモハメドレザ・サルカールアラニ氏（アラーム・タバタバイ大学）、および山下王世氏（東京外国語大学）から多大のご協力を得た。記して感謝したい。

2007年10月3日

国際日本文化研究センター
(前) 海外研究交流室長
猪木 武徳